



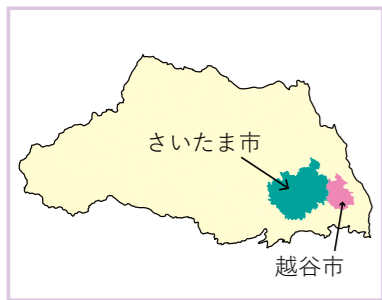
見沼通船堀のイベントの様子

2

見沼代用水の 開発

つかむ

この船は何をしているのでしょうか。



さいたま市の位置



見沼通船堀 開閉

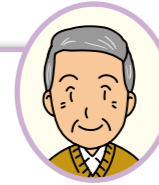
こうすけさんが住んでいるさいたま市の東がわに、田が広がっている見沼という場所があります。見沼には、見沼代用水という用水があり、今もこの見沼代用水で、船を使い、昔の様子を伝える行事が行われています。

地いきのくわしい方に、話を聞くことにしました。



通船堀で船をあやつる人

地いきにくわしい人の話



この行事は、昔この地いきでとれたものを、江戸まで運んでいる様子をさいげんしたものです。昔はこの水路に船をうかべて、運んでいました。主にお米や野菜を運んでいました。その昔、この地いきは新田開発を行いました。新田開発とは、新たに田を開くことです。そして、その新田開発でできた田を「見沼田んぼ」とよんでいます。

● 新田開発

もとの土地に手を入れ、新しい田を開くことです。



「昔は船を使って物を運んでいたんだね。江戸とは今の東京都のあたりのことだと聞いたことがあるよ。」



「でも、どうしてお米を江戸に運んでいたのだろうか。」



「新しく田んぼを開いたと言っていたけど、その前はどんな土地だったのかな。お米がとれないところだったのかな。」

こうすけさんたちは話を聞いて、見沼田んぼのことをさらにくわしく調べてみたくなりました。



今の見沼田んぼの様子



つかむ

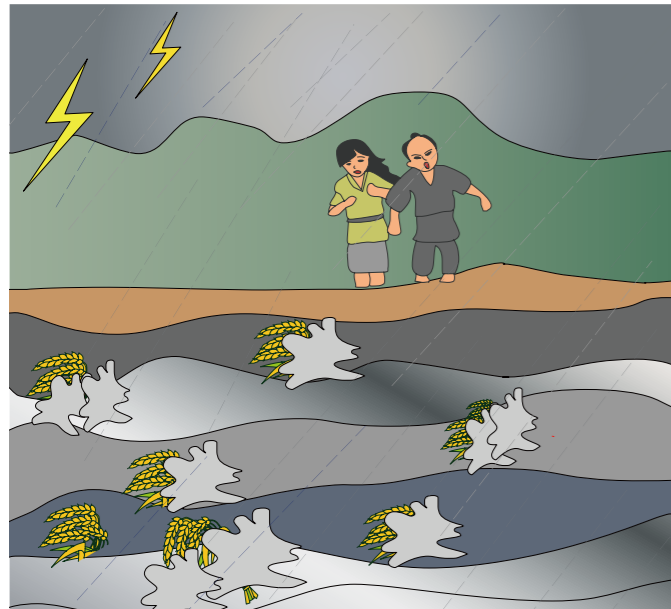
見沼田んぼはどのようにしてできたのかを調べ、学習問題を考えましょう。

人々の願い

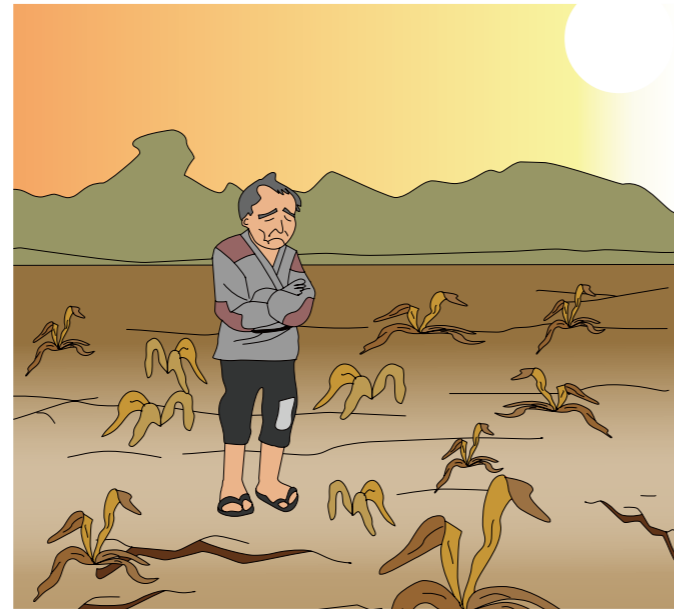
こうすけさんたちは、どうして米を江戸にとどけていたのか、そして、新田開発が行われた理由について、当時の人々の願いを調べてみました。

農民の願い

昔は米を江戸におさめる「ねんぐ」という決まりがありました。そのため、地いきで米作りをし、とれた米を江戸まで運んでいたのです。しかし、この地いきはもともと低い沼地であったため、水害が起きやすかったり、土地が干上がってしまったりする欠点がありました。米は決められた量をおさめなければならないので、米がとれないときは大変でした。



大雨による水害



日照りによる水不足



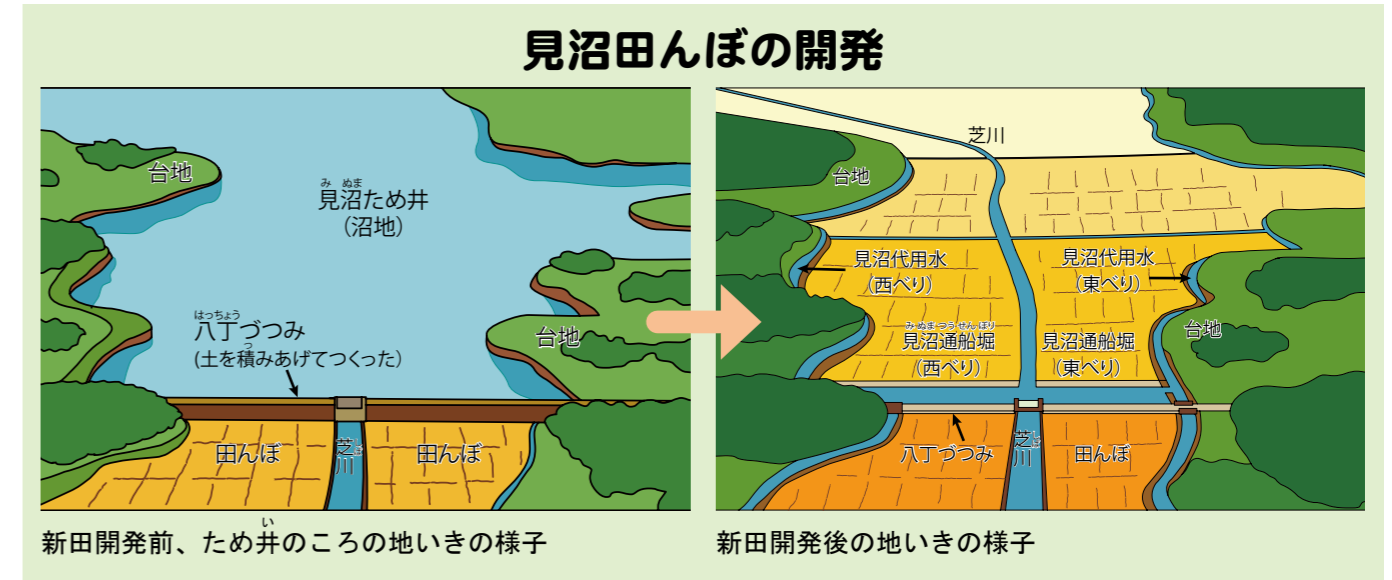
「お米は昔の人にとってなくてはならないものだったんだね。だからお米がとれる土地に開発しようとしたんだね。」



「お米を安定してとれるようにしたいという、当時の人々の願いがあったんだね。」

こうすけさんたちは見沼田んぼの開発がどのように行われたのか、昔の地図をくらべてみることにしました。

見沼田んぼの開発



今の見沼代用水西べり



今の見沼代用水東べり



「ため池だったところが変わって、水の通り道になっているね。見沼代用水という水路がつけられたことがわかるね。」



「よく見ると、川と水路がつながっているところがあるね。だれがどのようにして水路をつくったのだろう。」

こうすけさんたちは気になったことから、学習問題を考えました。

学習問題

見沼地いきの新田開発は、だれが、どのようにして行ったのでしょうか。



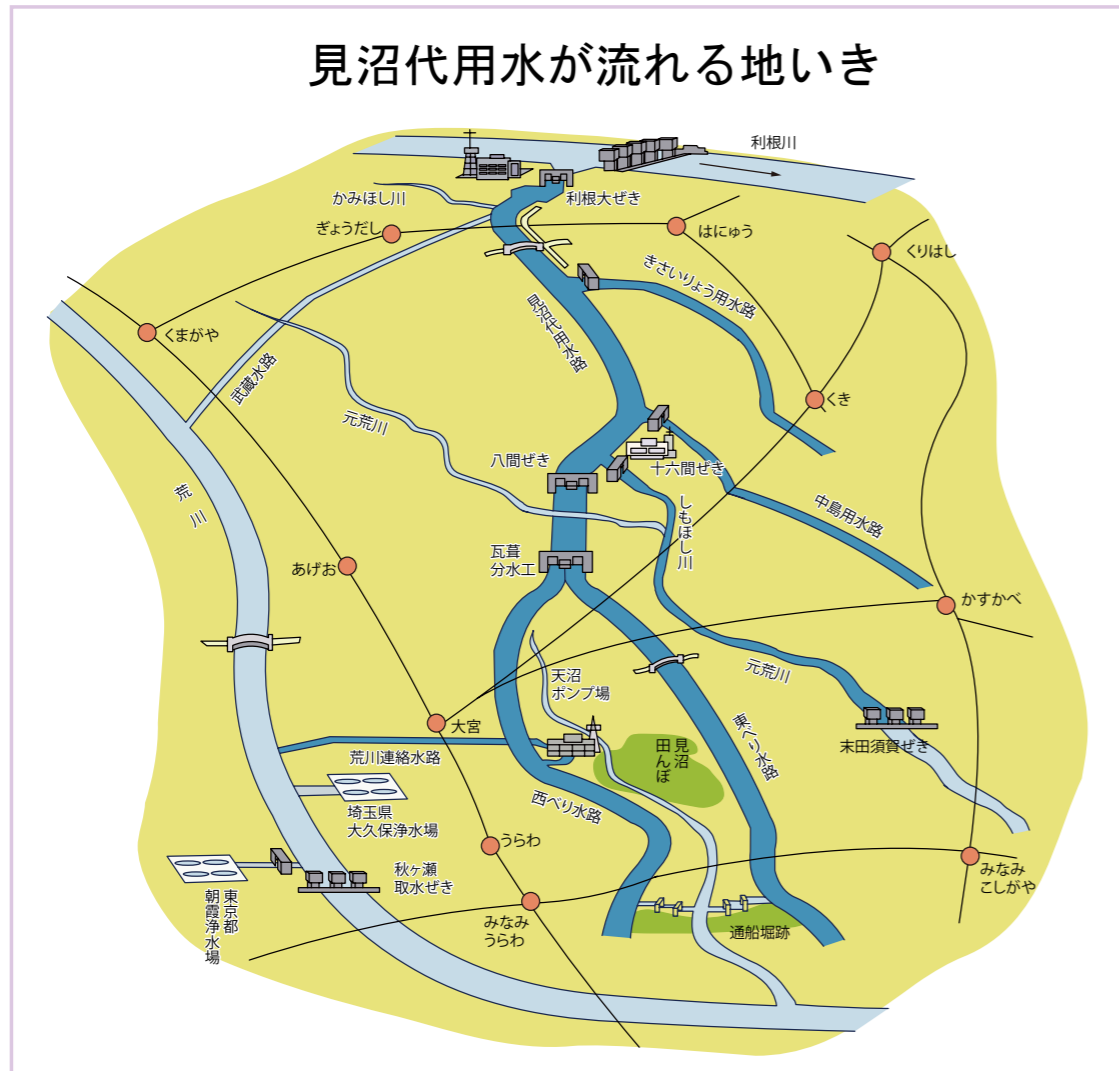
調べる

見沼新田はだれが開いたのでしょうか。

見沼代用水の開発

こうすけさんたちは、図書館に行って、見沼新田の開発について書かれた本をさがしました。

見沼代用水が流れる地いき



「新田で米をつくる水は、見沼代用水という用水路から取り入れたそうだよ。長さは合計で60 km以上あるみたいだよ。」

「井沢弥惣兵衛という人物が中心になって、見沼代用水をつくって新田を開いたようだね。」

「よく見ると、見沼代用水は利根川から水を引いて、交差したり、二手に分かれたり、川と合流したりして流れているね。」

新田を開いた人物は「井沢弥惣兵衛」という人だということがわかりました。



井沢弥惣兵衛の像

年	年れい	できごと
1663年	0才	紀伊国（今の和歌山県あたり）に生まれる。
1710年	47才	かんがい用池として亀池（和歌山県海南市）をつくる。
1722年	59才	江戸の役所にたのまれて、紀伊国から江戸へ来る。
1723年	60才	下総国の飯沼（今の茨城県）に田を開く。
1727年	64才	見沼代用水の工事を始める。
1728年	65才	見沼代用水が完成する。
1729年	66才	江戸の中川や多摩川を直す。
1731年	68才	見沼通船掘が完成する。
1738年	75才	弥惣兵衛がなくなる。

井沢弥惣兵衛に関わる主なできごと



「見沼代用水の工事を始めてから、1年で完成させたんだね。」



「工事をしている期間は、米づくりを中止していたのかな。米がつかれなくて大変そうだね。」



「60 kmもの用水を短期間でつくったのだから、何か工事にくふうがあったんじゃないかな。」

こうすけさんたちは見沼代用水が井沢弥惣兵衛によってつくられたことを知りました。そして、さらに調べてみたいことをノートに書き出してみました。

こうすけさんのノート

- ・川と合流したり、交差したり、二手に分かれているのはなぜか。
- ・短い時間で用水が完成したのはなぜか。
- ・工事を行った井沢弥惣兵衛の苦労は何か。
- ・人々の生活はどのように変わったのか。

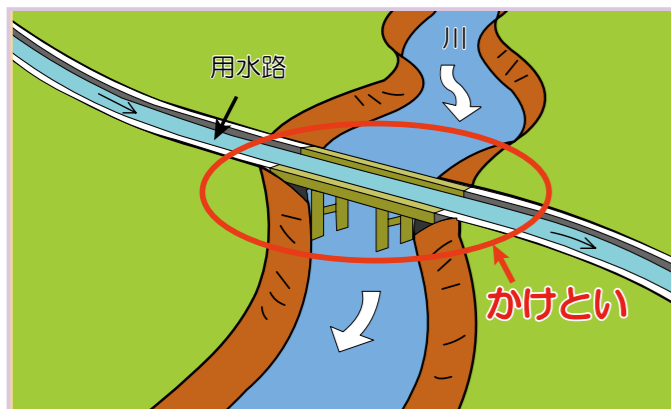


調べる

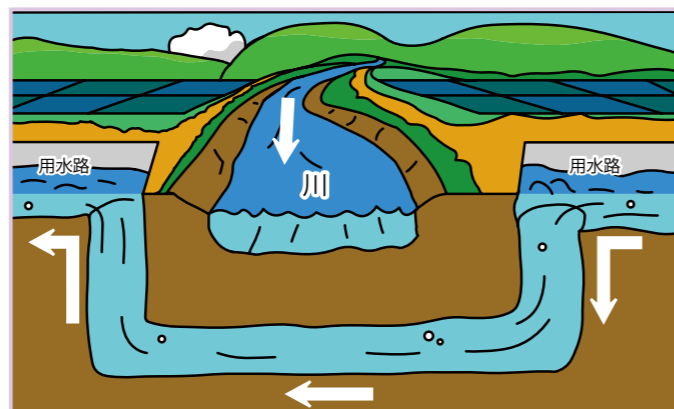
なぜ、用水路は川と交差したり、二手に分かれたりしているのでしょうか。

利根川から水を引く

弥惣兵衛は見沼代用水の水を、遠くはなれた利根川から引いてきました。これは利根川がゆたかな水量をもっているからです。



かけといの図



ふせこしの図



今の瓦葺のかけとい（上尾市）

昔は綾瀬川の上に橋をかけたわし、用水路を通していました。今はふせこしになっていて、レンガづくりのときのあとが残っています。



今の柴山ふせこし（白岡市）

元荒川の下に用水路をつくり、水をくぐらせています。



レンガでつくられた
かけといのあと

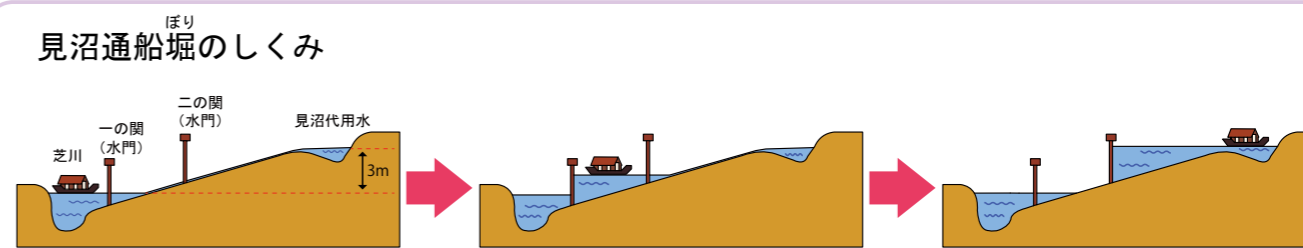
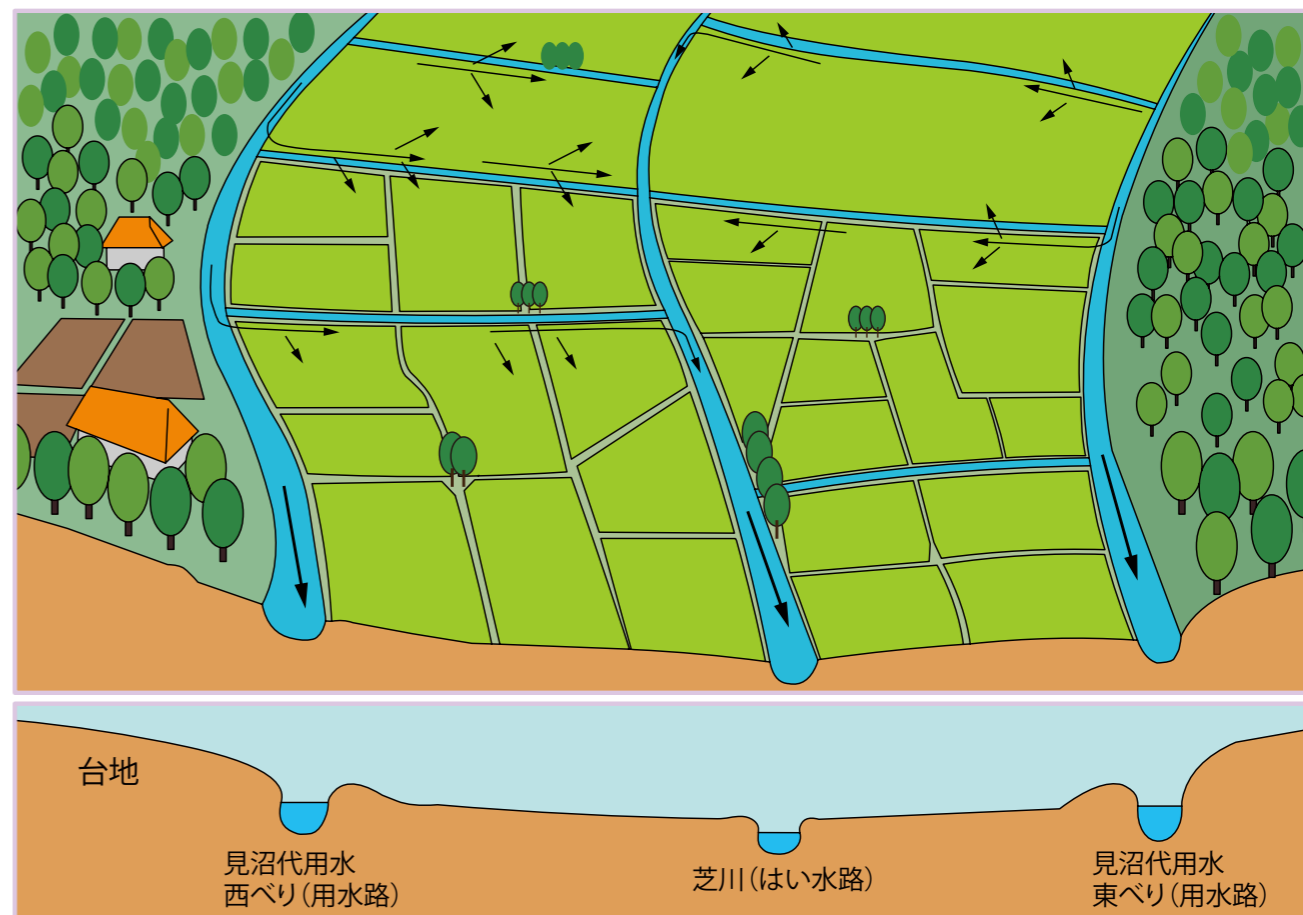
また、川と交差する場所は、川の上を通したり（かけとい）、川の下をくぐらしたり（ふせこし）しました。



利根川から水を引いてくるためには、川と交差しなければならなかったんだね。

二手に分かれた用水路

見沼代用水は綾瀬川をこえたところから、東西の二手に分かれます。これは、間にある土地が低いことを利用して、その土地に水を入れるためのくふうです。田んぼから水を出すときには、間に流れる芝川を利用してはい水を行います。



見沼代用水（東西）と、その中央を流れる芝川をむすぶ全長約1kmの運河です。水位の差がはげしいところに水門をつくり、水位を調節して船を通すしくみになっています。

「弥惣兵衛は土地の高さも考えて、見沼代用水をつくったことがわかるね。」

「でも、どうやって土地の高さを正かくに調べることができたのかな。」



調べる

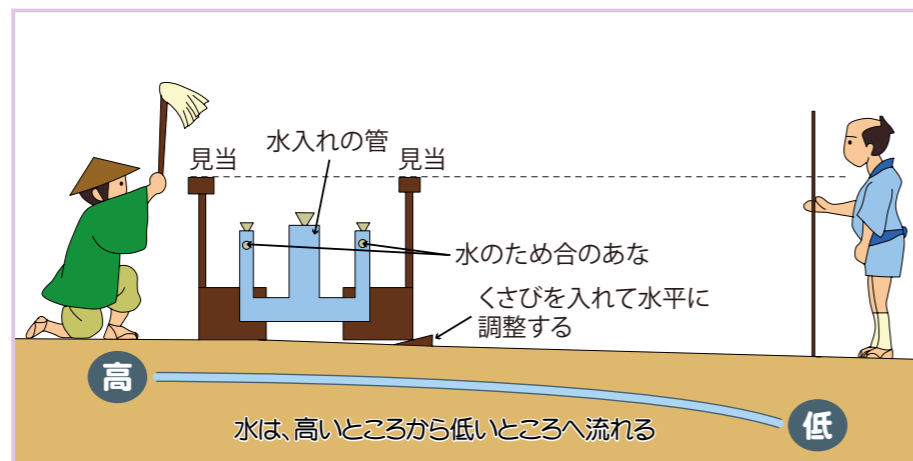
用水路の工事はどのようにして行われたのでしょうか。

水盛り

工事を始める前に、土地や建物の高さや位置を正しく出すための作業方法のひとつです。

土地の高さを調べる

水は高い土地から低い土地へ流れるので、用水路をつくるには、土地の高さを調べるのが欠かせません。そこで、弥惣兵衛は道具を使って、各地の土地の高さを調べました。



みずも ほうほう
水盛りの方法

見沼代用水土地改良区の話



弥惣兵衛さんは工事を行うにあたり、さまざまなくふうをしています。水は低い方へ流れるため、水盛器をはじめ、たくさんの道具を使って、土地の高さを正かにはかり、夜には「ちょうちん」や「花火」を使って、水路をほる方向をかくにんしたといわれています。

また、もともとある「星川」という川の上流と下流に見沼代用水をつなぎ、20 kmもの長さを水路として利用したり、見沼ため井の周辺は沼のふちに水路をつくったりすることでこうりつ的に工事を進めました。

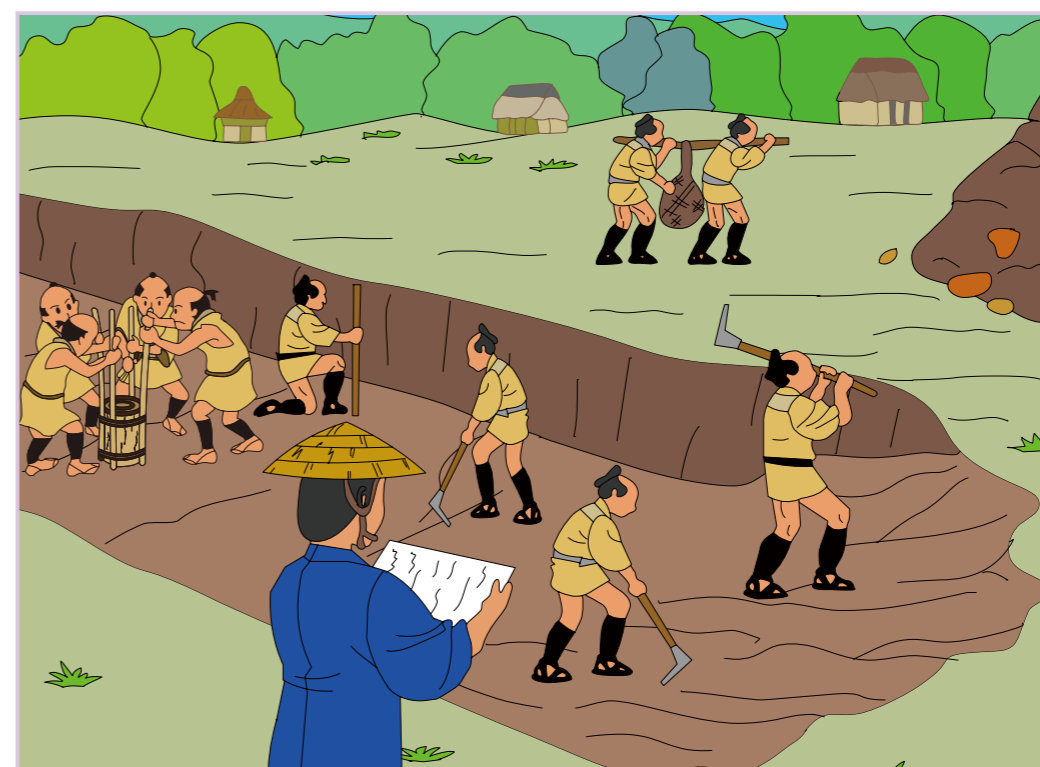
工事は水路近くの村々に協力してもらいました。春の田植えに間に合わせるため、村ごとに分たんを決めて、いっせいに工事を行い、のべ90万人の人が工事に参加して完成させたといわれています。

かけといなどのふくぎつなこうぞう物は細工の上手な江戸の大工さんがつくりました。げん場にとどけられた木材を組み立てると、すん分たがわずおさまったといわれています。



工事に使われた道具

- ・もっこ…石や土を運ぶ。
- ・すき…土を直線じょうに切り出す。
- ・くわ…土をほり起こす。
- ・四人づき…土をたたいて固める。
- ・たたき板…土をたたいて固める。
- ・じょれん…土砂をかきよせる。



用水路をつくる工事の様子

「そく量の技術だけでなく、川を活用したり、江戸の大工の手を借りたり、たくさんのくふうをしたことがわかるね。」

「夜にも工事を行うことで、工事の期間を短くできるね。どうしてそんなに早く工事を進める必要があったのかな。」



調べる

新田開発によって、当時の地いきの人々の生活は、どのように変わったのでしょうか。

工事の期間

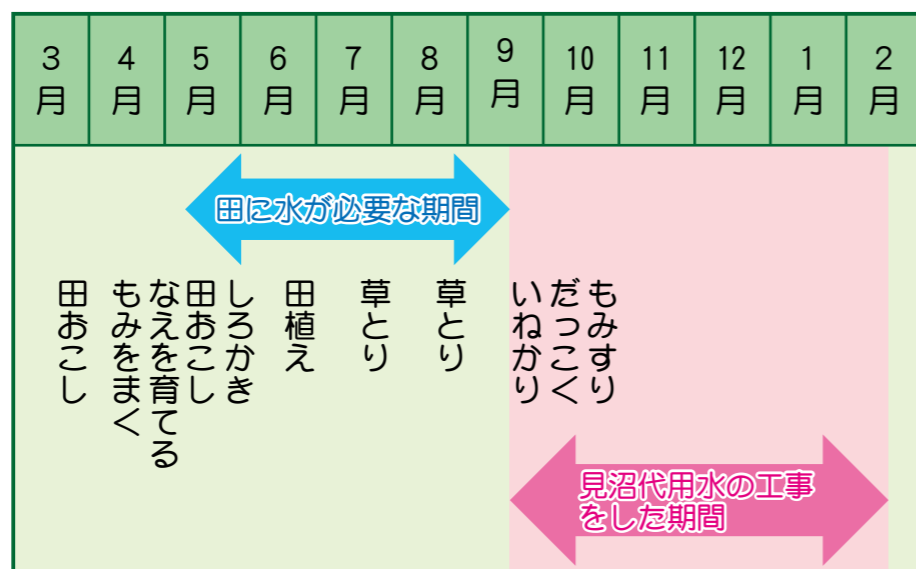


「9月から2月の約5か月の間に用水路をつくったことがわかるね。これまで学習した工事のくふうにつながっているんだね。」



「春や夏には工事をしていないね。何か理由があるのかな。」

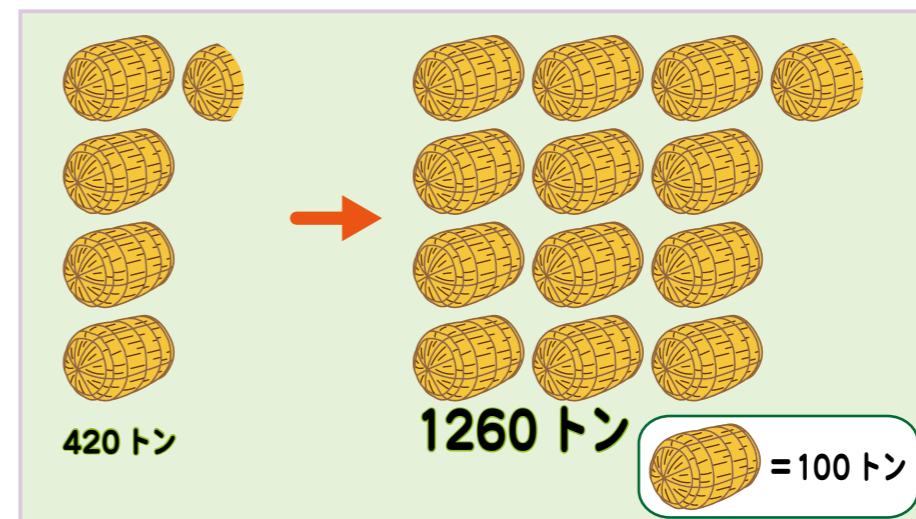
用水の工事を行っている間は、作物をつくることができません。そこで、弥惣兵衛は、今つくっている田に水が必要な時期が終わってから工事を行うことにしました。



見沼代用水の工事をした期間

生活の変化

弥惣兵衛が開発を行った場所は、ため池だったため、ほとんど米を育てることができませんでした。用水を引き、開発を行ったことで、米を育てることができるようになりました。



用水のおかげで、たくさんの米をつくることができるようになったね。



まとめ

こうすけさんたちは、これまで学習したことをもとに、学習問題の答えを話し合いました。わかったことから、人々の生活を向上させた井沢弥惣兵衛に手紙を書くことにしました。

井沢弥惣兵衛さま
弥惣兵衛さんは

という当時の人々のねがいにこたえるため、

など、さまざまな努力をしました。

その結果、たくさんのお米が安定してとれるようになりまし

まとめる

学習問題について話し合い、弥惣兵衛の苦心や努力をまとめ、弥惣兵衛に手紙を書きましょう。

学習問題

見沼地いきの新田開発は、だれが、どのように行っていったのでしょうか。